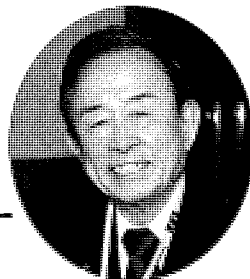


人格と生産性

第 2730 地区

大迫 三郎 ガバナー
(宮崎南 R C)



ロータリアンとは「職業奉仕を実践し、社会に貢献し人格の向上を目指す、地域と世界のリーダーのステータスブランドである」

私はこのフレーズを機会あるごとに語ってきました。

人格の向上を目指す。一度しかない人生の最高の生き方を求める。これはロータリーの目的でもあります。そこでより高度な職業奉仕を実践するのに、人格の向上が、人格の陶冶がどのように必要なのか。人格こそはリーダーの必須要件であり、人格の備わっていない人の指示や教示は、たとえそれが立派で道理にかなっていても、真に人々の胸に響かない。リーダーとは識学、行動共に備わっていなければならないが、特に大事なものは人間性、人徳であります。

当然のことではあっても、私たちはともすると人格の向上とか、人格の陶冶された人間は全てに丸くなって、物わがりの良い、穏やかな人間性を想像します。しかし実像はそんな生易しいものではないと思うのです。

外見や言葉遣いは柔らかく穏やかであっても、内心は熱烈に燃えるパワー全開の人なのです。

多くの厳しく難しい人生を体験し、勉強し、耐え抜いて、世のため人のために尽くした人の心身には、想像を超える素晴らしい力が内面にあふれています。しかもそういう人々は、さらに向上を目指してあくなき勉強を続けておられます。もちろんリーダー性は、生来の備わったものがあることも否定できません。しかし備わったリーダー性も、経験の仕方や学ぶ環境、交わる友人知人によってその発露が変化すると思います。

そこを補い修道していくのがロータリーであり、リーダーとしての人格の陶冶、人徳を磨くのが目的であります。その努力がひいては全ての生産性の向上につながるものだと思います。まさに人格は生産性なのです。

(印刷)